

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500291		
法人名	医療法人社団 生和会		
事業所名	グループホーム和み		
所在地	山口県周南市大字湯野4298番地1		
自己評価作成日	平成29年8月17日	評価結果市町受理日	平成30年1月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成29年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、共同生活を通して個々の思いや生活を尊重しながら、認知症介護に携わる有資格者が一人ひとりに適した支援を心掛けて行っております。場所は静かな山間の湯野温泉街入り口付近に位置しており、四季折々の風情を楽しむことが出来る明るく開放的な施設となっております。また、目の前にある花壇では、季節のお花を育てたり、家庭菜園では、ミニトマト・なすび・ピーマン・きゅうり等を植えており、利用者様と一緒に収穫し育てる喜びや毎食のメニューに採れた新鮮野菜の美味しさを味わって頂いております。レクリエーションでは担当者がご家族様と共に楽しむ行事を年に数回企画しており、毎回沢山の方に集まって頂き利用者様・家族様、職員とみんなと一緒に楽しんでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は三食とも、各ユニットごとに献立を考えられて、地域の人や家族からの差し入れの野菜や旬の食材をつかって、事業所でつくっておられます。利用者は、献立名を書かれたり、下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗い、食器拭きなど、できることを職員と一緒にされています。おやつづくりや季節の行事食、弁当をつくっての外食、月1回の外食など、食事が楽しみになるように支援しておられます。家族が参加される行事を年3回(春まつり、運動会、ホテルでの忘年会)開催しておられる他、誕生日会には家族を招かれて手づくりのケーキや利用者の好みの献立の食事を一緒にされたり、消防署の救急救命の訓練にも家族が参加されているなど、利用者と家族、事業所の関係づくりをされて支援しておられます。毎日の事業所周辺の散歩、足湯や喫茶店に出かけられたり、初詣や季節の花見、美術館や博物館の見学、道の駅、動物園、りんご狩りなど、家族の協力を得られながら、戸外に出かけられるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス時や申し送り時には理念を念頭に置き、実践に繋げていけるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者は、毎日の申し送り時や月1回のミーティングで利用者一人ひとりに合った具体的な話をして、全職員で理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の野菜を差し入れていただいたり、近隣の温泉施設へ外食や朝市に出かけたり、足湯に出かけたり等自然な形で地域との繋がりをもてるようにしている。	事業所周辺の散歩時や近くの足湯で地域の人と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れや七夕の笹の提供があるなど、交流している。中学校の文化祭の見学にでかけている他、福祉体験学習を受け入れている。法人の病院のフェスティバルに参加している他、法人の託児所の子供たちが散歩の途中に立ち寄りたり、節分の行事で訪れて交流している。歌やオカリナ、南京玉簾などのボランティアの来訪があり、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の福祉体験学習への事業所解放を継続しており、毎年6名～7名の中学生がいらしてます。認知症の方とのふれあう機会を提供させて頂いています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員と自己評価の項目について話し合いながら日常の支援について問題だと感じていることを持てるようにしている。	管理者は、評価の意義について職員に説明し、前回の評価結果と一緒に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、評価のための会議を開いて項目ごとに話し合っまとめている。全職員が消防署の救急救命講習を継続して受けているなど、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所の職員・地域包括支援センター職員、介護相談員、消防職員、派出所の方、近隣の方、御家族に参加して頂き、運営状況、活動状況、利用者の方の日常生活、行事内容等について報告し、意見交換を行っている。	会議は年6回開催し、利用者の状況、職員の配置状況、行事報告、ヒヤリハット、事故報告などをして意見交換をしている。運営推進会議に合わせて避難訓練を実施している。	・会議を活かした取り組み

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、市の高齢者支援課の職員の方が、運営推進会議のメンバーに入っており、運営やサービスについて電話、メール、直に訪問を行い協力関係を持つようにしている。	市担当者とは、運営推進会議の他、直接出向いたり、電話やメールで相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換している他、地域包括支援センターのホームページに事業所について掲載してもらっているなど、関係を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体でそれぞれの利用者様の行動や特性を話し合い、個々に応じた対応を行えるようにしている。身体拘束についての研修も定期的に行っている。	事業所独自の「身体拘束排除マニュアル」を基に、月1回のミーティングの中で内部研修を実施し、職員は正しく理解している。玄関には施錠しないで、外出したい利用者には、職員と一緒に出かけて支援している。スピーチロックなどに気づいたときには、管理者が指導したり、申し送りで共有して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症に対する理解を深めていけるように、定期的に研修を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	要性のあるご家族に対しては、制度内容をきちんとご説明できるよう努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスについて十分なご説明をさせていただき、理解・納得をされたうえでの締結、解約を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに第三者委員の方も参加して頂いていることから、気軽に話せる機会を作っている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議時、年3回の家族が参加している行事(春祭り、運動会、忘年会)時などで、家族からの意見や要望を聞いている。介護相談員が来訪し、利用者の意見や要望を聞いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営状況や職員情况等現場の意見等を必要時に随時報告している	管理者は毎日の申し送り時や月1回のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者やユニットリーダーは、日常の業務の中や随時、個別に職員と面談をして意見や要望を聞いている。業務手順の改善など、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の見直し、休憩時間の見直し、手当ての見直し等働きやすく、やりがいに繋がっていくように整備している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修への参加の機会を設け、職員のスキルアップに繋げて行けるよう業務の一環として積極的に取り組んでいる。	外部研修は、職員の段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講者は、復命報告書を提出している。内部研修は、年間計画を立てて、月1回のミーティングの中で、プライバシーの保護、接遇、認知症、感染症、食中毒などについて実施している。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加入や近隣のグループホームとの合同研修が有る場合には参加させていただくなど積極的に交流を図るようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様、御家族様に、現時点での不安なことや生活暦を聞きながら、どのような生活をしていきたいかを話しをしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気を作り、御家族様のお話を聞きながら、不安なことや要望をお聞きしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族様が必要とされている支援について、話を聞きながら、グループホームでの対応がよいのか、又他のサービスを利用したほうがよいのかを話し合いながらの対応を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事の大切さを職員が理解し、利用者様自らが自然な形で日常生活を行って行けるようにとりくんでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型行事や誕生日会などの呼びかけを行い、利用者さまとご家族様の繋がりを大切にしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御近所の方々の来訪や昔からの行きつけの病院へ行くことがある。	家族の面会や親戚の人、知人、自宅の近所の人の来訪がある他、年賀状や著中見舞い、手紙を出したり、電話の取次ぎなどの支援をしている。自宅の近くや以前住んでいた場所にドライブしたり、家族の協力を得て、一時帰宅や外泊、家族と旅行、墓参り、外食、買物等に出かけているなど、これまでの馴染みの関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状況を把握しながら、小さなトラブルを未然に防ぎ、職員が間に入りお互いが助け合える状況作りを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、現在どのように生活しておられるか等、御家族様よりご連絡いただいたり、定期的に行っている和みカフェへお誘いし参加して下さったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中で会話や表情を記録に残し、本人がどのようなことを思い考えているのかを検討している。	アセスメントシートを活用している他、日々の関わりのなかでの利用者との会話や表情、行動などを介護記録に記録し、職員間で話し合っ、利用者の思いや意向の把握に努めている。	・思いや意向の把握の工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の情報を元に、以前サービス利用していた事業所への状況提供を求め把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録、ケアチェック表、ケア日誌等により、全職員が把握できる体制を作っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフ、ケアマネを中心に3ヶ月に一度、必要であればその都度、本人様の支援に携わっているスタッフ、ご家族様にて現状に応じた支援のあり方を話しあっている。	計画作成担当者や利用者を担当している職員を中心に、本人や家族の意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にして、月1回のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。毎日の介護記録に介護計画を記載し、利用者を担当している職員が毎月モニタリングを実施し、結果と利用者の様子を事業所だよりと一緒に家族に送付して確認してもらっている。6ヶ月毎に見直している他、認定変更時や利用者の状態に変化があった場合には、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録については、カンファレンス時に、担当・ケアマネよりケアプランの内容に基づいたものや、特変については詳しく記録するように呼びかけることで、意識付けができ計画の見直しにも活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への同行、個々の要望に合わせた買い物、喫茶店へお茶を飲みに行くなどを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある飲食店への外食や足湯へ行ったリイベントへの参加をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医へ定期受診を行い、ドクターと良関係を保ちながら、職員同行の元に、適切な医療が受けれるよう支援している。	利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医とし、家族の協力を得て月1回の定期受診を支援している。月2回、協力医療機関の往診がある他、週1回、訪問看護師による健康管理をしている。緊急時には協力医療機関と連携して対応しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による健康管理をしており、必要時の受診を行い、服薬に関しても薬剤師の指示をもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報提供を行い、連携室の方と連絡調整を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様、御家族様、主治医や看護師・職員との十分な話し合いを元に、その方にとって今必要なことを考え支援を行っている。	重度化した場合に事業所でできる対応について、契約時に本人や家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合には、家族の意向を聴き、主治医や訪問看護師と話し合い、法人の他施設や医療機関への移設を含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者様に起こりうるリスクについてを、ミーティング時に話し合い、職員全体で把握するように努めている。	ヒヤリハットや事故が発生した場合には、その場にいた職員で対応策を検討し、管理者に報告して、事故報告書に記録して回覧し、翌日の申し送りで報告して、職員間で情報を共有している。全職員と利用者の家族を含めて、消防署で3時間の救急救命講習を受講して、事故防止と実践力を身につけるようにしている。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の総合訓練と年2回の避難訓練を職員の少ない夜間を想定して行っている。地域の方や御家族様の参加により安全に避難できる方法をみんなで考えている。	年2回、夜間の火災を想定して、避難訓練を実施している。運営推進会議と併せて実施しており、利用者の家族、近隣住民、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加して、通報、避難経路の確認、避難誘導、消火訓練を実施している。地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の方にはわからないような誘導の声掛けの仕方等を常に心掛けている。	内部研修でプライバシーの保護について学び、職員は理解して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。管理者は、「あなたにとって利用者の方は」のテーマで、職員の利用者への思いを把握するように努めている。記録物は事務所内に保管して、取り扱いには注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色んな場面で、自分の思いを主張され、利用者の方に選択して頂けるような支援を行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と共に会話を楽しんだり、御家族が来られたときには、お部屋でおやつを一緒に食べられたりされている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出に行く日などは、いつもよりお洒落な装いを心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3度の食事を献立から、片付けまで利用者様と職員で一緒に行っている。又、お弁当をつくり近くの公園に行き外で食べたりしている。	三食ともユニットごとに献立を考え、配達された食材や差し入れの野菜を使って、利用者と一緒に食事づくりをしている。利用者は、献立名を書いたり、下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳、食器洗い、食器拭き、おやつのお買い物に行くなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで一緒に食事をしている。おやつづくり(クッキー、ゼリー、プリン、ホットケーキ、たこ焼き、ちんすこうなど)、パン、ピザ、ラーメンづくり、季節の行事食(おせち料理、桃の節句のちらし寿司、おはぎ、ぜんざい、月見団子など)、家族を招いての誕生会のケーキづくり、梅ジュースづくり、事業所でつくったお弁当を持っての外出、家族と一緒にのホテルでの忘年会、月1回程度の回転ずしやファミリーレストラン、道の駅での外食など、食事が楽しみになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量については、咀嚼、嚥下の状態に合わせて、食材の工夫を行うなどしている。食事・水分量は記録用紙に記入し確認している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の確認、残歯がある方は、歯磨きの介助や歯磨きアドバイスを行っている。清潔保持の為に、歯ブラシの回収・洗浄・保管、夜間の義歯消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記入し、排泄パターンを職員が把握し、トイレ誘導を行っている。カンファレンス時には、利用者様に合わせた紙パンツやパットの使用を話し合い変更を行っている。	排泄表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水や、体操、散歩、定期的な排泄誘導を行い、又、食物繊維の多い食材を取り入れることにより、自然排便に繋がるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の状態、体調に合わせて、1日を通して時間的にゆっくり入浴して頂いている。	入浴は毎日、9時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて入浴できるように支援している。しょうぶ湯やゆず湯で入浴が楽しめるように支援している。利用者の状態に合わせて、シャワー浴や足浴、部分浴、清拭などで対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその方の体調、体力に合わせた休息をとっていただいている。夜間帯は、居室内の温度調整、明るさに注意を払っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬剤情報提供書をファイルし、目的や副作用、用途等について理解すると共に、薬は手渡し、服薬を確認している。処方に変更があった場合等は、職員全体で把握し状態変化に気をつける。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花作りの好きな方には花壇の手入れ、家事の好きな方には、台所にて、食事作りやおやつ作りを職員と共に積極的に参加して頂いている。	テレビ視聴(ニュース、歌番組)、読書、雑誌や新聞を読む、習字、トランプ、かるた、はり絵、ぬり絵、パズル、計算、漢字、ナンプレ、絵合わせ、風船バレー、魚釣りゲーム、編み物、裁縫(帽子作り、ボタンつけ、縫い物)手芸、食事づくり、おやつづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけ、プランターの水やり、広告紙での箱づくりなど、利用者一人ひとりのしたいことやできることを活かして、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外食や日常の中での散歩、ドライブ、玄関先での日光浴など、御家族様が来所されたときには、御一緒にドライブや散歩やお食事などに出掛けられている。	毎日の事業所周辺の散歩や近くの足湯、喫茶店、弁当を持参し公園などへの外出、季節の花見(桜、紫陽花、つつじ、コスモス、紅葉など)初詣、美術館や博物館の見学、動物園、道の駅、りんご狩り、家族も参加してのホテルでの忘年会など、家族の協力を得ながら、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方に対しては、ご家族にお話しをし許せる範囲で持っていていただいている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への暑中見舞いや新年の挨拶、バースデイカード、絵手紙などを書き郵送している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、いつも清潔にしており、食事作りの香りや音、季節の草花の鑑賞することで、季節を肌で感じて頂きながら自然に生活出来ている。	居間兼食堂は、大きな窓で明るく、テーブルやソファ、テレビが置いてある。散歩時に取ってきた草花を生け、壁には季節ごとに利用者の作品や行事の写真を飾り、天井にも季節感のある飾り(ぶどう、りんごなど)を飾っている。居間に隣接している台所から、調理の音や匂いがして生活感がある。浴室やトイレは整理整頓しており、清潔感がある。温度や湿度、換気に配慮して居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、共用空間、廊下などには椅子、ソファを設置し、思い思いの場所で過ごせる空間があり、自由に気の合う方同士が、過ごされている。個々に居室があり独りの空間も持てる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される際には昔から使われていたダンスの持ち込みをされたり、壁飾りを職員と一緒に作って飾ったり、写真など飾り楽しまれている。	整理ダンス、鏡台、化粧品、テレビ、テーブル、椅子、ぬいぐるみ、利用者がつくった日本人形、花瓶、時計など使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、家族の写真、カレンダー、ぬり絵や折り紙などの作品を飾って。居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内バリアフリーにしており必要な場所に手すりを設置している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム和み

作成日：平成 30 年 1 月 22 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	運営推進会議には、市職員、地域包括支援センター職員等の参加はして頂いているが、ホーム内の報告のみになっており意見交換などが出来ていない	会議を活かした取り組み	※具体的な議題をあげ、専門職の方に意見を聞けるようにする ※運営推進会議を地域の方に利用していただけるような場にしていく	1年
2	13	外部研修に行った際には、復命報告書の提出を行っているが、内部研修に関しては、ミーティング議事録と一緒に記録している	計画的な研修の実施	※外部研修に関しては引き続き復命報告書を提出していただく ※内部研修に関しては参加人数、内容を詳細に残していく	1年
3	24	日々にケアの中で会話や表情を記録している	思いや意向の把握の工夫	※アセスメントシートの記入を詳細にしていき利用者様の思いや意向を具体的に把握していく	1年
4	35	事故発生時や緊急時の対応において全職員が同じ知識やレベルに到達していない	事故発生時や緊急時に全職員が、状況をきちんと判断し、初期対応、又は、応急処置が落ち着いて行えるようになること。	普通救命救急を定期的に受講する。 マニュアルを参考にしながら、起こり得る事故を想定し研修を行なっていく	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。